

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

グローバル化と場所

グローバル化と空間の均質化が進行する現代において、それとは対照的に「場所」とその復権をめぐるさまざまな議論が喚起されている。なぜ場所が注目されるのだろうか。そこにはさまざまな背景がある。たとえば以下に挙げるような点である。

第一に、グローバル化の中で流動化する日常世界における不安の増大、その中で安定した拠り所を求めたいという欲求である。第二に、分断され、個人化される社会の中で、共同性とその基盤となる空間が求められていることがある。第三に、国境を越えた市場経済化の進行の中で、小商品生産様式とそれに基づく地域社会が危機に瀕していることである。第四に、その一方で、(大量生産から多品種少量生産に移行した) ポストフォードイズムの時代には、画一的ではない差異に敏感な商品やサービスが求められ、その中で場所(たとえば産地や生産者商標に示されるような)が重要な付加価値を与えている。第五に、商品やサービス自体だけでなく消費が実現される空間においても差別化・差異化が図られ、顧客を集めるための居心地の良い場所づくりがますます重要となっている。

これらの諸点は相互に関連している。グローバル化にともなう資本、物、人、情報の国境を越えた流通と相互依存の急速な増大は、これまで以上に人びとに自らの生活空間と意思決定の力を越えたところで物事が決まり、またそれに(不本意にも)影響を受けざるを得ないという思いを抱かせる。それに対する苛立ちや不安はしばしば、自らの空間を安定的で同質的なものとして再構築しようとする「他者」の排除を含む実践を生み出す(安田 2012)

ポストフォードイズム体制の下でのフレキシブルな生産は、企業を雇用の流動化へと向かわせる。非正規雇用が常態化し、労働者は分断される。かつての企業内労働組合に守られた労働者の権利も侵食されるが、非正規雇用に就く若年世代の多くは、そのような最低限の権利にも与れず、著しい世代間格差をもたらす(熊沢 2007)。「働かない」で「高給」を得る公務員へのバッシングは、その不満のはけ口として利用され、さらなる規制緩和と労働条件の低水準での均衡化が図られることになる。

非正規雇用が同一労働・同一賃金の原則に基づくなら、「フリーター」という呼び方に当初表象されていたように)それは組織に縛られない自由な生き方を可能にするものかもしれない。しかし現実はそのようなわけではない。セーフティネットを欠いた働き方の変化が、ネオリベラリズムの原理の下で、自己責任の名の下に個人に強要される。正規雇用と非正規雇用の間には、結婚して家族を持つ可能性にも大きな落差がある(藤森 2010)。教育課程、企業福祉、家族福祉、公的福祉、そして自分自身からの五重の排除が、負のスパイラルを増幅する(湯浅・仁平 2007)。問題なのは、非正規雇用の若者たちの多くが、自らの労働とそれに伴う関係性を蓄積して自己の資源としていくような、人間として他者と向き合い協働していくような機会と場所を奪われていることである(武田 2009)。

人びとが生産者として減価されることと表裏一体の関係をなすのが、消費者としての選択肢の多様化に基づく見せかけの豊かさである。二四時間営業のコンビニエンスストアの在庫管理に象徴されるような消費者の嗜好(必ずしも「ニーズ」ではない)への同調を支え

るのは、深夜労働を含む過酷な労働管理であり、低賃金の非正規雇用の構造化である。二四時間営業のマクドナルドを一杯のコーヒーでねぐらの場所とするホームレスの青年たちと、そこでマニュアル通りの笑顔で客を迎え管理された感情労働（ホックシールド 2000）を実践するアルバイトの若い女性たちは、地続きである。

消費者の利便性が追求されるのは、そこに利潤が生み出される限りにおいてであり、人口密度が高く購買力を持つ大都市と、地方都市、農村、周縁化された「過疎」地域の間には落差が生じる。自家用車を持たず、大型ショッピングセンターを簡単に利用できない地方の高齢者にとっては、公共交通の弱体化と商店街の衰退に伴って消費の機会は減衰していく。そこには対面関係に基づく消費から、非人格化された消費への移行による、「場所」の喪失が重なり合っている。

（出典：熊谷圭知『パプアニューギニアの「場所」の物語—動態地誌とフィールドワーク』九州大学出版会，2019年，pp 25-27）

問い

- 著者は、グローバル化の中で「場所」とその復権をめぐるさまざまな議論が喚起されている」と主張していますが、グローバル化と場所は具体的にどのように関係があると説明していますか。
- 「ポストフォードイズム体制の下でのフレキシブルな生産」体制の中で起こっている「雇用の流動化」とは、どんな状態を指していると思いますか。メディアなどで報道されている事例も思い浮かべ、なるべく具体的に教えてください。
- 著者は、湯浅・仁平（2007）を引用して、「教育課程，企業福祉，家族福祉，公的福祉，そして自分自身からの五重の排除が，負のスパイラルを増幅する」と指摘しています。これは具体的にはどのようなことを指していると考えられますか。自分の言葉で説明してください。

口述試験ではやりとりの中で、以下のような追加の質問を問う可能性があります。

例：

- このテキストでは、現代社会で問題となっているさまざまな事象が取り上げられています。論じたい事象を一つ選び、自分が知っていることや、それについて考えたことを述べてください。
- グローバル化の進行とともに、その労働力が不可欠となってきた外国人や留学生の日本での「場所」はどこだと思いますか。自分の意見とその理由を論じてください。
- 技能実習生や学生アルバイトの労働条件や環境について、直接知っていることでも、学習やメディアを通じて学んだことでも構わないので、このテキストの内容を結びつけて、あなたが主張したいことを論じてください。